令和５年度 第１回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和５年７月１０日（月）午後６時から午後８時まで
場所	尼崎市議会棟議員総会室
出席者	（委員） 足立委員、渥美委員、江田委員、大槻委員、田井委員、中西委員、久委員、松村委員

■議事内容

１　開会にあたって

傍聴者の確認

傍聴者なし

２　市長より挨拶

◆市長

この審議会は稲村前市長が強い思いで作った審議会で、それは委員もご存知だと思う。当時、私は尼崎市教育委員会で教育長をしており、法律上の公民館が無くなるということで、教育委員の方からは多くの意見がありつつ、生涯学習プラザという大きな概念の中に統合されることになった。私は教育委員会内で話し合いを行い、結果的に公民館の理念は生涯学習審議会と生涯学習プラザに残した上で、公民館は教育委員会の所管からは外れることとなった。ただ、公民館でやってきた事業などは、できるだけ維持してもらうように、この生涯学習審議会で議論してもらうということで結論が出た。

私は文科省に在籍していたが、最初の配属は生涯学習政策局である。昔は学校教育局がほとんどだったが、ある時期に生涯学習局ができた。これはユネスコの議論を踏まえてできたもので、ポール・ラングマンというユネスコの有名なスタッフが生涯教育という理念を出し、これからは生涯教育の時代だということで、初等や大学の教育だけでなくて生涯教育していくという理念を出し、それを踏まえ世界的に広まり日本でも生涯教育という概念が広まった。昔は生涯教育だったが、ある時期から生涯学習という言葉に転換されていき、日本でも生涯学習政策局ができたという経緯がある。

公民館は戦前からあったが、当時のいわゆる生涯学習の理念が生まれる前の公民館はどちらかと言うと識字教育等が中心であった。それから、戦中になると、子どもには学校で竹槍戦術を教えることができるが、大人にはそういう場がないので戦争を翼賛するような幻灯画を公民館で流して大人をある種洗脳するということに公民館が使われた時代もあった。戦後は様々な概念が出て、学校教育を終えた人たちでも学べる環境を作ろうと公民館が位置付けられ、また放送大学の創立や様々な大学院が増えたという歴史がある中で、生涯教育から生涯学習になった。しかし理念先行型で実態がないというか、具体的な政策として展開するには難しい分野で、実は国では生涯学習政策局はなくなり総合教育政策局に

なった歴史がある。なぜ実態がないかというと、教育機関をつくれるわけでもなくて、大人の教育機関として大学院は様々な年齢の人を対象にするが、一般的な大人の人たちが学ぶ環境をどう作るかというと制度的には難しい。結局は主体性に委ねざるを得ないというか、国や自治体が旗振りしてできるわけではない。つまるところ、やはり稲村前市長が言う、市民の方々の主体性をいかに喚起できるかがポイントということになると、上位の抽象的な国が引っ張るよりは自治体で盛り上げていく方が強みを発揮できる部分と私も思っている。そういう意味では形のない分野なので、地域で独特の繋がりがあって良いと思う。まさに尼崎というのは医療生協などの各生協が盛んで、地域主体・地域主権で動いてきた。公害問題などの様々な課題を地域が主体となって動くことによって権利獲得や社会課題の解決をしてきたという文化が強い地域なので、こういうところこそ生涯学習、地域主権が連動した動きの特徴が出しやすい伸びる地域だと思うので、その良さは私も大事にしながら市政運営していきたい。そういう意味では今日の委員も様々な背景を持った方々であり、色んなアイデアをいただきながら地域独特の施策展開を進めたい。

３　令和４年度の地域課取組の振り返りについて（審議）

２グループに分かれて、グループ内で審議を実施。

⑴　共通項目「防災を通じたシチズンシップの向上」
⑵　地域別シートのうち各地域課が選択したテーマ

４　全体共有

⑴　共通項目「防災を通じたシチズンシップの向上」

<u>○委員（小グループ代表）</u>

小田地区では民生委員と高校生達が一緒になって動いたと聞いた。防災に限らず高校生も一緒になって動くことは良いことだが、実は担当の先生が熱心というのが大きく影響している。担当の先生が変わることもあるので学校の伝統にしていく必要がある。いずれにしても高校生が防災だけでなく様々なことに関わっていることが特徴である。

立花地区では組織に入っている方や入っていない方と様々いる中で、全戸ポスティングでイベントを開催した。結果は 2000 人程にポスティングし 10 人程が来たことに対し、これを高いと思うか低いと思うかだが、妥当な数字だと思う。しかし、例えば実際には連協は連協のプライドがあるので他所との交流は難しいというところに難点がある。

中央地区では考える防災を進めていこうと、学校の PTA にも入ってもらい多様な人が多様な場面で講師になったりしながら防災講座等を進めていった。これらの議論を進めている中で時間が来てしまった。

それから、地域別シートについては文字が多すぎるという意見や地域課主催でないことも

書いた方が良いのではないかと言う意見があった。

○委員（小グループ代表）

３つの地域振興センターから防災の取り組みを聞いたが見事に３地域とも違った。

大庄地区は生涯学習プラザに新しいかまどベンチがあるが、そのかまどを使ったことがないので実際に使っての訓練を実施した。

武庫地区は町会加入率が低く町会に頼れないため、ペット同伴の防災訓練を計画し、ペットの繋がりで人を集める工夫をした。

園田地区は消防団の方々が熱心に動くため消防団企画で進めた。消防団員にベトナム人がいる地域があって、ベトナム語で情報伝達する必要があるという話があった。

３地域とも様々な特徴がある中で防災への取組を行っているが、地域振興センターの取り組みと地域での防災の関係性をもう少し整理するともっと良くなると投げかけさせてもらった。時間が足りなくてグループ内には話していないが、例えば、地域振興センターで色々とチャレンジングなことを実施し、それを地域の方に持って帰ってもらうというようなやり方もあると思う。それから実際に園田地区で行っているが、消防団の各分団が集まり情報交換するだけで、それぞれのことの学び合いになるというように、地域と地域振興センターの取り組みの整理ができれば良かった。

また、防災を通じたシチズンシップの向上が一番の柱なので、防災の取り組みの報告ではなく、シチズンシップがどれだけ向上したかという報告、評価になっているべきである。それぞれの取り組みが本当はシチズンシップの向上のために行っているはずなので、この目的で取り組み、その成果としてこういった結果が生まれ、あるいは、こういった課題が出てきたという発表だと、よりメリハリがついた。

それから、去年の審議会で市民ともっと一緒に評価していきたという話が前市長から出たが、今回はそれを反映したのかいう意見もあった。例えば、報告の中で参加者の意見がもっとたくさん出ていれば、それだけでも市民側の評価が多かったといえる。ちょっとした工夫でも良かったと思う。

武庫地区のペット防災でシチズンシップにつなげるという意見があった。今まではペット好きの人たちが集まって訓練されているので問題なかったかもしれないが、動物嫌いな人が入ってくると状況は変わってくる。価値観のぶつかり合いなど、いろんなことが起こってくる。それを乗り越えるための話し合う機会が生まれれば、最初は喧嘩するかもしれないが、多様な立場の人が地域で暮らすということの一つの題材となる。

⑵　地域別シートのうち各地域課が選択したテーマ

○委員（小グループ代表）

小田地区と立花地区からはやりたいことを具体化するための伴走支援ということで、小田地区ではやりたいことをコミュニティスペース等で支援しているが、参加数が安定しリピーターがいるとなってくると今後はいかに自立していくのかという支援になるが、そこに営利活動が絡むと扱いが悩ましいという話だった。

立花地区は若者に目を向けユースの居場所を開放し、そこでやりたいことを把握しようとしている。ユースカフェ等で様々な意見が出てくるようになることが大事で、やりたいと言ってもすぐ実現するわけでもなく、また言ってしまうと自分に責任が生まれるというふうになり、若者たちはやりたいことがあっても言えなくなってしまうということがある。そこで、やりたいことを何度も関わる中から感知したら、それをうまく進めてみるか、あるいは徹底的に大人がそれを受けて実現してみる等のやり方の工夫がこれから求められると話があった。

中央地区は毛色が違い、違法風俗営業地域の閉鎖に伴い通学路を確保するという活動であったり、あるいは阪神ダルクという薬物依存の方の回復施設ができたことによって住民が反対ののぼりを立てたりと大きな問題になっているところに、行政としてそこに入って、どのようにしていくかとの話があった。こちらの方も例えば通学路を取り戻すということだが、風俗店が閉まったことによって一気に通学路ができたかというと一気に街は変わらないので、これから通学路を徐々に取り戻していくところである。阪神ダルクの方も反対派からすれば出ていって欲しいが、賛成派からすれば何故出ていかなければいけないのかという話になるわけで、これについてもようやく住民の方々の意見を、住民の方々によって取りまとめようかという段階まできているということが報告された。

このように非常に時間のかかることで、また先ほどのやりたいことの支援に関しても非常に繊細で微妙なところがあるものなので、これは量的に図れるものではなさそうな感じがする。非常に質的なところに深く立ち入って考える必要があるという印象を持った。

○委員（小グループ代表）

大庄地区は大庄西中学校の跡地を公園化しようということでワークショップをした。このワークショップの中で、色々と賛否両論が出るが、それをみんなで調整し進んでいったというのがシチズンシップの向上という意味でもすごく成果が出たという報告があった。それを受けて、私も公園作りの専門で大阪の生野区で市街地整備したときに、個人の土地の権利が絡むといった難しい事業なので、事業の賛否が分かれるという経験をした。その時に防災のための 100 ㎡程の小さなポケットパークを作り、そこで同じようにワークショップで意見を聞きながら公園を作った。その時に自治会長さんから「最初からこういうワークショップをやってクリアしてから、全体の市街地整備に持っていけば良かったな」という話をもらった。個人の土地の権利は凄くとげとげしい話になるが、公園や広場というのは他人の場所を使ってみんなの場所を作っていくわけなので、利害関係を乗り越えていくようなきっかけにも、こういう公園ワークショップを使えば良いというのを改めて感じた。

武庫地区は退職後に何かやりたい人を集めてカフェを開き、いわゆる地域デビューの場として機能している。

それから園田地区は農地が多いところで、自然と文化の森協会を作ったが、その後に広げることが難しかった。それについてプラットフォームを使い、協会の方が作った農作物を販売するといった取組で少しずつ新しい方の参画も広げている。

この３つの話を聞いた中での評価だが、少しずつそれぞれの地域性みたいなものが出てきた活動が広がっていて良かったと感じた。かつては参加者数ばかりを追っていた時代があったが、本当に大きい方が良いのか、小さい方がまとまりの良い活動になっていることもある。それが地域性の話や、どういう人たちが巻き込まれたかみたいな質的な評価に変わっていったというのはとっても良いという話があった。

それから、そもそも地域課の人たちが頑張るよりも市民が自分の手でやる仕掛けづくりが地域課の本来の仕事ではないのかという意見もあった。なので、それぞれの活動について地域課が何をやったという報告ではなく、こんな仕掛けによってこんな人が関わってくれるようになったというような評価が本来の姿ではないか。まさしくそれが中間支援の役割であり、地域課の仕掛けに市民がうまく乗っかり、みんなが地域で頑張れるようになるという仕掛けづくりが本来の地域課の仕事なので、どんどん広がってほしい。

それから今日の報告を聞いても子供の顔が見えないという指摘もあった。もっと子供が関わるような形で、子どもを核にしながら大人が関わっていくと、大人同士の関係も変わってくるはずなので、もっと子供たちの顔が見えるような活動が増えてほしいという意見が出た。例えば、カフェじぃで言うと子どもはコーヒーを飲まない。園田地区の取組にしても、子どもは野菜を買いに行かない。なので、野菜を使って子供たちと一緒に料理を作るといったように、展開を少し変えるだけで子どもが巻き込まれた活動になるというアイデアが出た。

このように質的なものを評価できるような評価シートになれば良いという意見がこのグループでは出た。だから何々しましたという報告よりも、仕掛けによって、どれだけの市民を巻き込めたか、新しい活動に繋がったのかというようなことをもっと出した評価シートの方が良いのではないかという指摘があったので、今後の評価の参考にしてほしい。

５　振り返り・感想

〇委員

今日はありがとうございました。市民活動からしてもこの会はすごく勉強になると参加して毎回感じる。様々な考え方を聞くことができ勉強になってありがたい。

地域の事業や生涯学習プラザへ、もっとたくさんの市民が関わり、生涯学習を我が事にしてもらいたいし、仲間が増えてほしいとも思う。あと、立花地域課が Facebook で職員の似顔絵をあげていて親しみを感じた。まずは生涯学習プラザ、地域課職員、指定管理者が親しみを持ってもらうことが第一歩と思う。これからも自分のできることで取り上げていきたいと思う。どうもありがとうございました。

〇委員

どうもありがとうございました。公民館を廃止し、生涯学習プラザとして再編する議題の真ん中にいた人間で、その時には 6 つの公民館が 12 の公民館機能を持った施設になると聞

かされた。生涯学習プラザの指定管理者を選定するときに、委員の人たちは「子供の居場所をこれからも奪わないでください」と言っており、それが今回の報告でも実施されていると実感しながら聞いていた。

ただ、こちらのグループの話し合いの中で、市民からしたら指定管理者しかいない施設も、職員がいる施設も全部が同じ施設という話があったが、まさに、あとはそこだけを気を付けるべきと思う。市民がどう感じているのか、職員がいる施設もいない施設も、同じ生涯学習プラザとして見ていることを職員全員で共有いただき、さらに良い施設になってほしい。また、そうなるためには良い職員であっていただきたい。

○委員

本日もお腹いっぱいで帰らせてもらう。本当に多種多様と言うか、社会福祉協議会的にも勉強になる。また一緒にやっていき勉強させてもらいたい。

今回の地域別シートのレイアウトについて字が多いという話があったが、個人的には読みやすかったので続けてほしい。あと生涯学習プラザの話で、子供が勉強に来たり、中にはうるさいぐらい話したり、遊んでいる子もいる。小学生から高校生まで来るので、本当に良い場所として定着していると感じる。そこで今回、指定管理の選定の話にもあったが、図書について前回の審議会でも話題にあがった。身近にあり話のネタにもなるし、ちょっと手に取れるというのが良いのかなと思うので、それが充実する方向であれば良い方向に行くと思う。

○委員

どうもありがとうございました。皆さん、長時間お疲れ様でした。私もすごく疲れて発言も少なかった。市内に 6 地域があり、それぞれ特色、問題、課題があるのに対し、地域課はすごく真剣に向き合っていると感じ私も学ばせてもらった。地域課は 1 つずつ課題解決に取り組んでいるが、このグループで出た意見の中で地域課とは中間支援をするところだから、どんどんいろんな仕掛けをしながら、最終的にはやっぱり地域の方に解決していただくように導かないといけないということを、私も改めて気づかせてもらった。どうもありがとうございます。

○委員

私は小田地区に住んでいて、小田地区のことは何となく分かるが、他地区になると知らないこともありすごく興味がある。ここのグループで仕掛けというワードが出てくるたびに、私は地域課職員ではないのに、どんな仕掛けしようかとワクワクしながら話を聞いていた。そろそろ学校が夏休みに入るので、私もひそかに仕掛けをしていきたい。ありがとうございます。

○委員

長時間お疲れ様でした。ありがとうございました。私も地域別シートは見やすくなったと感じた。ポイントがはっきりしていて、これを押していると分かるので、どんどん良くなっていると思う。

仕掛けという話が出たが、地域課は少しずつ上手に仕掛けをしている事例発表だったと思う。そうやって声をかけたらこうなるのかとか、たくさんの地域の人に声をかけて出会ったのは6人だけと発言もあった。私はその瞬間に6人も増えたことは大きいことだと思っている。100人、200人を呼んだことがかっこいいわけでもない。他にも、子供の意見を前もって聞いて住民と話し合いをするといった素敵なことをしている地域課もあって感動した。非常に良いことをしているので、文字数も適当で多くないと感じた。だから地域別シートは、新しく参加した人や新しく繋がった人という欄を設け、全体の人数の内の何人が新規の人か分かるようにすると、すごく関わりが増えたと感じることができ良いと思った。

○委員

中央地区の阪神ダルクの話を聞いて、事業の賛成・反対がどんどん出てきているとあったので、アドバイスも含めて、そこに一点集中で話したい。そもそも、私は都市計画・都市開発の専門なので、反対派につるし上げられた経験は何度もあるし、反対派にワークショップに入れてもらえなかったという経験もした。そういった経験を経て今の私がある。どういうことかというと、話をする時にとげとげしい話題が出てからでは遅く、それまでに人間関係を作っておかないと進む話も進まなくなるということで、コミュニティづくりを一緒にすることが大事と気づいた。

また、ややこしい話が出てきた時にどうするかと言う話をする。反対派は事業を止めたいからどんどん声を上げるが、逆に賛成派は誰かが進めてくれるので黙っている。だから、本当は賛成派と反対派の意見の対立のはずが、事業を推進する事業者や市役所と反対派の意見の対立の構造に変わってしまう。それを本来の様々な意見の持ち主がいるということに戻そうと思うと、事業者や行政がどのポジションを取るのかはとても重要。

例えば立花駅前やJR尼崎駅前の再開発事業をする。再開発の担当者は一生懸命に自分が進めないといけないと思い、反対派に責められても何とか説得しようとする。私が半分冗談で言うのは、そのときに開き直ってみると良い。どう開き直るかというと、説明会で反対意見ばっかり言われると、そこで「わかりました。これだけ反対意見が多いということは、この事業はいらないということですね。ではやめます。」と言う。そうすると賛成派も声をあげてくるので、賛成と反対の意見があるということで、お互いで話し合ってもらう。自分が説明するから、賛成派はいつまでも前に出てこない。開き直って「やめます」と言うと、雰囲気が変わるというテクニックを使ってもらうことにより、本当の意味での住民と住民の議論になるので、そこは地域課の人も含めて、市職員のポジションの取り方の問題なので、そこはヒントを差し上げておく。こういうトラブルが起こった時に自分が当事者ではなく調整役に回るためには、発言の仕方やポジションの取り方次第ということを考えてほしい。

○委員

本日もすごく大事なテーマだったと思う。防災しか今日は取り上げられなかったが、その次の人権尊重・平和学習も大事。今だからこそ南海トラフの心配やウクライナ情勢があるという状況なので、本当はこれもじっくり聞かせていただきたかった。

中でもペット防災は、2016年の熊本で大きな問題になって以降、対応あるいは対策が進ん

でいるがなかなか知られていない。犬をずっと飼っている自分としても、どうしようかなと思ってしまうことがある。これなんかも是非それだけで取り上げても面白いテーマなので時間はもっと必要と思った。

それと、今日のポイントの１つだった地域別シートも良くなったと思う。質的な評価というのはこういうものであり、それぞれがいわゆる自己評価を書いてくれているのは実によくわかるので是非進めていってほしい。文字が多いという意見もあったが、多い割には読ませるようと感じた。

本日は地域の各振興センターで頑張られている方と、それを知っている我々との間の話し合いで盛り上がったが、市民にどれだけ伝わっているかは全然わからない。これを全部の市民に伝えるというような夢物語は言わないが、もう少し開ける方法ないかと今日も感じていた。それは何も我々が走り回って言うことではなくて、地域振興センターで日々で実施していることだが、もう一歩開けるにはどうしたら良いかなと考えていた。